

平成二十六年十一月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十二卷 第十一号 通巻七〇八号

書 象

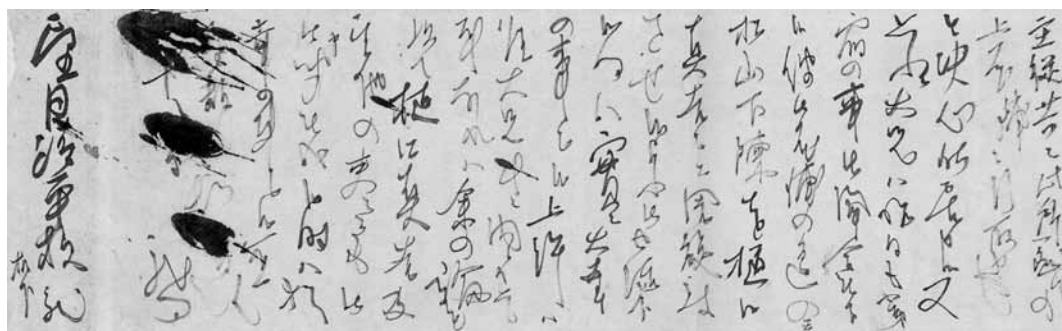


日本書道芸術協会

2014-11

書に想うこと

展覽会部々長 柳澤玄嶽



坂本龍馬書状の一部

最近、坂本龍馬の書を見る機会を得ました。龍馬は周知の通り、脱藩後暗殺されるまで実姉乙女に、手紙を小まめに送り続けました。ときとして姉をからかったり、また甘えもし、姉を慈しみながら自分の状況を綴る十尺に及ぶその紙面からは、墨色の変化、行の自然の流れ、一字一字の抑揚、決して好い加減ではない自由闊達な筆遣いが、見事な調和体作品を造り上げていました。

漢字は、象形・篆隸を歴て、紙と筆の発明と王羲之の登場により草・行書の完成を見、初唐の歐陽詢・虞世南・褚遂良が楷書を完成させました。その変遷の中で紙と筆は、「書」の世界を生み、それらは古典（古法）としてその後の書史の、書字規範を導いてきました。それは言う迄も無く私たちにとつての古典であり、「書の美意識」の源です。

晩唐に登場する顔真卿の書は、それまでの政治の中枢部に生まれた書から、知識人たる士大夫のもとへ下りてくる象徴でした。蘇軾は「顔真卿の書を見ると、いつも彼の風采が想い浮かぶ」と、また高村光太郎は「斯の如き書を書くものは正に斯の如き心眼のある人物である」と評しています。その書には顔真卿の人としての生きる力が見えるのです。私は龍馬の書に、顔真卿のそれと同じ息遣いを感じたのです。幕末という動乱の中、新しい日本を造るため命懸けで生きている姿を髣髴させるのです。

顔真卿以後の書は、宋・明・清と時代を歴て、それぞれの人となりによって様々な方向に展開して行きました。「美的な文字構造とは」「線の美とは」「書は人なりとは」「書に携わる者にとつて常に考え問いつけている問題です。最近「書の美意識」に対する自分自身の見識の狭さを痛感しています。

日本の書は、明治以後芸術のジャンルとして発展してきました。特に戦後は、前衛・調和体・少字数などが登場し、また伝統書に於いても、金文を素材にした書表現や、墨の濃淡、連綿草書体の試みなど、書の表現は無限に拡がり今日があります。

様々な書表現をどう捌き、どこに「書の美意識」を持つかは、やはり古典（古法）に立ち返り、古典に準拠した文字を見出す作業しかないと思います。「書は一生の稽古なり」士大夫龍馬の「書は人なり」には到底達しえませんが、筆を持ち続けることが今できる唯一です。



鳥散じて小屋静かなり

11月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は卦線入りですが、出品者は卦線のない半紙を使用してください。

楷書臨書規定（師範・準師範・段位）

化度寺碑

上條信山先生書

為言冠
玄宗以

為言。冠玄宗以

11月20日必着
出品券を貼付

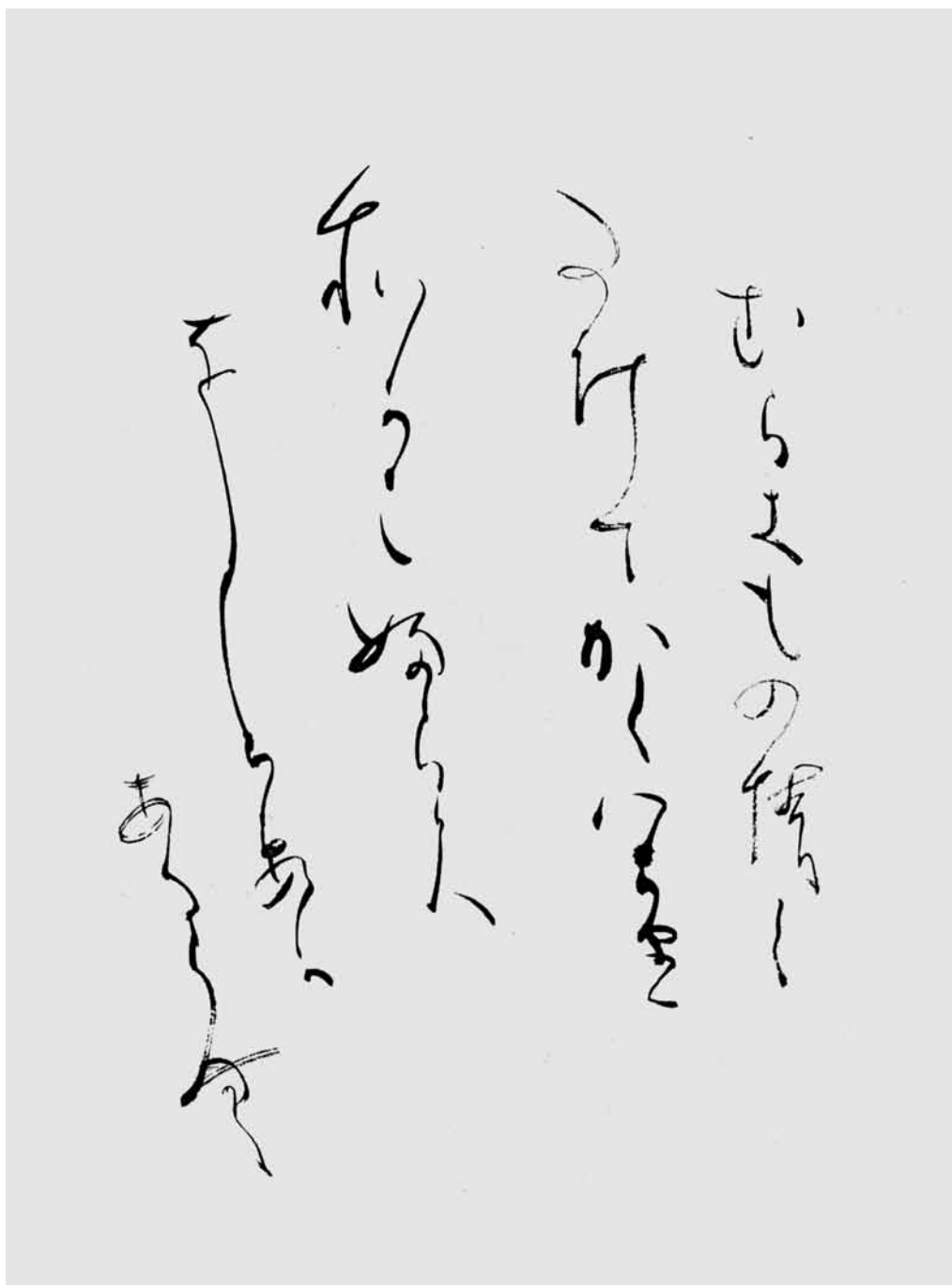
為言冠玄宗以

・中心線をしっかりと把握する。
・横画の平行・等間隔を守る。
・文字の中の空間を意識して書く。
「為」左はらいの角度と長さに注意。

衆妙

衆 妙

- ・二字ともに様々な点画の方向、長短が特徴的な字。
- ・全体が大きくならないよう、伸びやかなところと引き締めるところに注意する。
- 点画の接する部分に気を配り、細部まで捉えたい。



むらぎ（支）もの情く（久）だ（多）け（計）てかく（久）ば（八）か（可）り（里）
わ（和）が（可）こふ（婦）らく（久）をしらず（数）か（可）あるらむ（無）

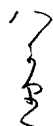
11月20日必着
出品券を貼付

・全体の構成は左図参照。中央をやや広目にして、各行の高さ、傾きに留意してまとめる。



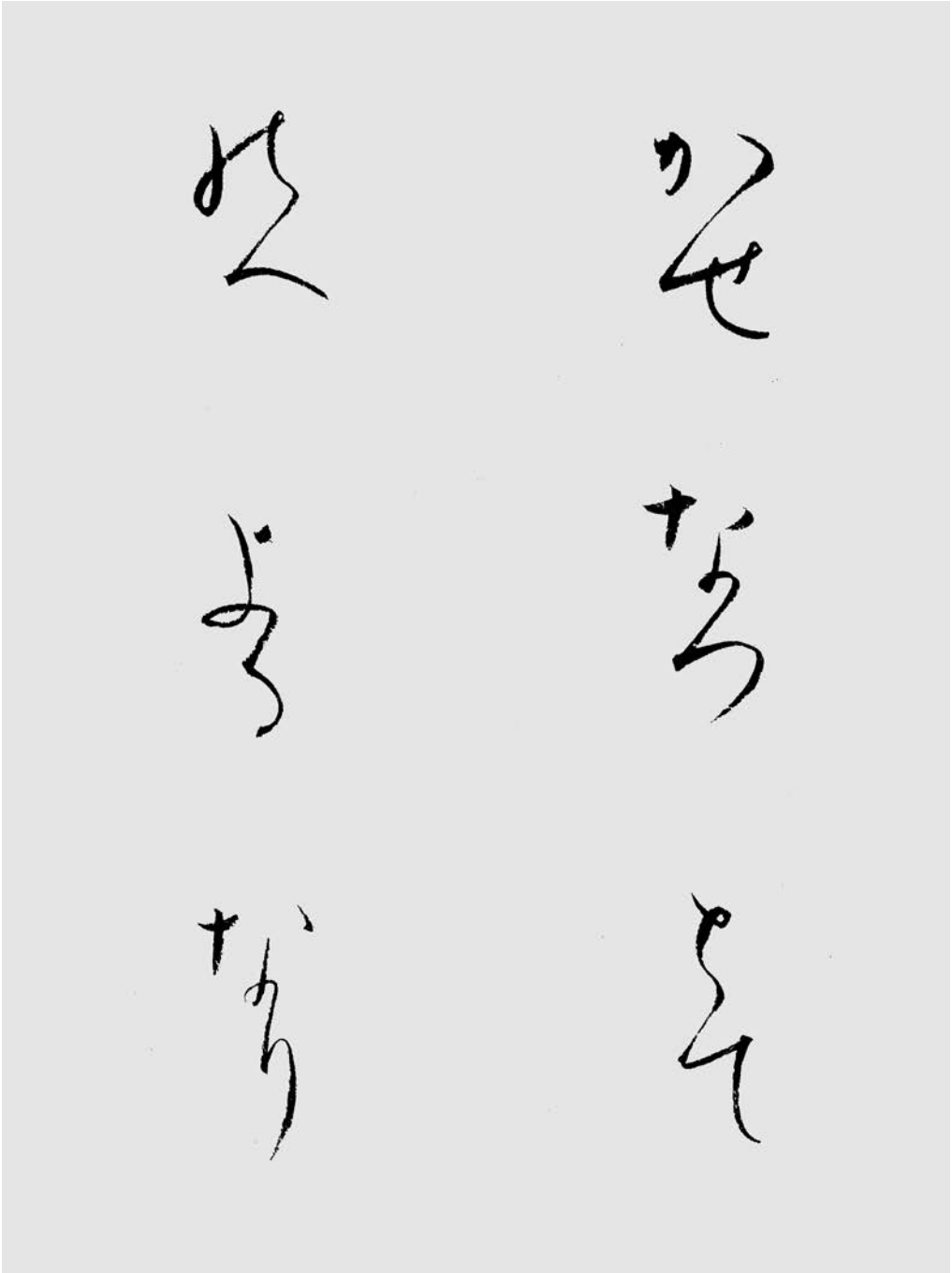
・最初は渴筆で書き始め二行目の「かく」で墨継ぎをし、それから最後まで一気に書く。

・「ばかり」



・「あるらむ」





かぜなつとて
の（能）へよるなり

「か」の終画を長めに折って、いったん細めにし、しだいに筆圧を加えて「せ」に続く。



連綿線は大まわりしないで、直線的に。「つ」の起筆は突き返すようにして転折する。



「と」字の終筆は、なめらかに流すようにしてから、「て」の起筆に直線で続ける。



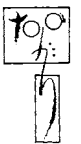
…部で強く曲げて、「へ」字の起筆へまっすぐに筆を運ぶ。



「よ」の終筆でゆっくり曲がり、連綿線に移る。「る」字は右よりに小さめに。



…部を小さくして、自然に「り」の第一画めに移っていく。



研究

張猛龍碑

田中節山先生書

春方

・造形 左右六・四の造形比率を表現したい。

・点画の方向をよく見る。

・「春」の左払いを長めに。



・「方」の点は強めに。



春方

11月20日必着

出品券を貼付
入選作のみ発表します

倚樹聽流泉

樹に倚って流泉を聴く。

・横画は水平を心掛ける。

・「樹」寸の縦画は途中まで垂直方向、その後は左方に伸び伸びと引く。
・「倚樹聽流泉」はP14参照。

山風は（八）吹けどふ（布）か（可）ねど白波の
寄す（春）るいは（者）ねは（八）久しか（可）り（利）け（介）り（李）

山風は（八）吹けどふ（布）か（可）ねど白波の

寄す（春）るいは（者）ねは（八）久しか（可）り（利）け（介）り（李）

・字幅ゆったりと、ふところの広い字形をとる。

・墨つぎは「いは（者）ね」で。

・「白波の」「寄す（春）る」はP14参照。

友親
人し

中学一年規定

柳澤玄嶽先生書

化重
財要
文

中学二・三年規定

中村巍山先生書

应 方

小学五年规定

杉山晚雲先生書

旅 宇
行 宙

小学六年规定

石丸晚風先生書

学上
人へ

小学三年規定

山口啓山先生書

古
寺へ

小学四年規定

大島峻山先生書



小学一年規定

恩田静月先生書



小学二年規定

宮本耕成先生書

硬筆規定

一般規定(師範・準師範・段位)

上條信山先生書

つけすてし野火のけむりのあか(可)あかと見え
ゆく頃ぞ山はか(可)な(那)しき 尾上柴舟の歌

つけすてし野火のけむりのあ
あかと見えゆく頃ぞ山はか
しき 尾上柴舟の歌。

一般規定(級位)(古今和歌集)

内藤望山先生書

おく山に紅葉あふりけなく
鹿の声きこゆぞ秋は
かなしき

中学規定

虎井曉鐘先生書

遠い山並みに沈む太陽に映
えて、紅葉の赤や黄色が美し
い、秋の夕ぐれ。 支那年氏名

小・中学生随意課題

左の字句を半紙に書いてください。

小学 一・二年	木	小学 三・四年	鳥
小学 五・六年	空気	中学	動物

手本解説

・基本「散」「屋」「静」は左図参照。

・隷書条幅規定「倚樹聽流泉」左図参照。

・仮名条幅随意「白波の」「寄す(春)る」は左図参照。

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「重」は中心線が明確な字形。横画の長さに気をつけ、横画の間隔をつめて等しく書く。要は「下」の横画を十分に長く。「財」の旁(才)の三画目は二画目のほぼ中央に交わるように位置する。

「親」の偏と旁は二等分されるが、偏の方が背が高い。「い」は線が直線的にならないように気をつける。「友」は左右の払いで下部を安定させる。「人」は左右画目の筆の入る位置に気をつける。

小学五・六年規定

荻田光山先生書

長い年月をへて、今日まで
読みつがれてきた作品を
古典といえます。

名前 支部 年 級段

小学三・四年規定

竹内墨洋先生書

筆のとくちようは力の入
れ方で線の太さがかわる
ところですよ。

名前 支部 年 級段

小学一・二年規定

小川仙草先生書

ろ	わ	く
え	た	つ
ま	し	を
す	は	ぬ
	左	い
なまえ	右	だ
支部	を	あ
年	そ	と
きゅう		

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさ↓たて18cmよこ7cm小一・二課題↓2.1cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。

宇宙
旅行

小学六年

「宇宙」のA・Bのはねの方向、大きさに
注意する。「旅」は偏の左払いと終画
の右払いで全体のバランスをとる。「行」
は偏の一・二画目の右をそろえる。

古い
お寺

小学四年

「古」の一画目は横に長く。「口」は中心
からずれないように。「お」の二画目は
中心より左に。最後の点の位置は高く。
「寺」の上二本の横画はそろえる方向が異なる。

かき
ぜた

小学二年

「き」の三画目から四画目は続ける気持
ちで。「た」の二画目は直線で力強く。「か」
は一・三画目の画の向きに注意。「ぜ」
の一画目の横画は三等分されるから、で
きるだけ長く。

広がる
夢が

小学五年

「広」は左払いとのつり合いから「ム」
を中心よりやや右に寄せる。「が」は筆
脈を理解させ、筆で書けるように。「夢」
の左払いは伸びやかに。

学ぶ
ぶく

小学三年

「よ」はたて長の形。一画目と二画目の
最後の横画との間をあける。「学」は
の筆順を正しく、「の」の始筆と終筆を正し
く。「ぶ」は二画目のまるみに注意する。

ほん

小学一年

「ほ」の一画目は左へややふくらみを持
たせて伸びやかに書く。「ん」の概形は
ほぼ正三角形。斜画の中ほどで折り返し
○印の空間を広げに作る。

古典研究シリーズ

(377)

ちようもうりようひ

張猛龍碑 (碑陰)

北魏 正光三年(五二二)

今月のテーマ

写実的臨書

中字(四字、六字)

書き方

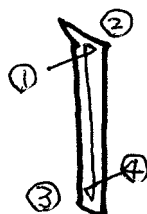
- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字で書いて下さい。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。
- そして古典研究の出品券を貼付して下さい。
(編集部)

解説

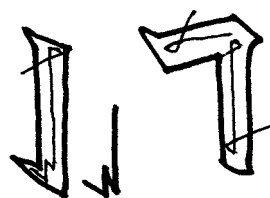


○用筆

- ① の方向から筆を運んで②でガツチリと止め③から④へ一挙に速く筆を運び、ガツチリ止めて④にかえす。



- ① の方向から運筆して②でガツチリ止め③から④へはかなりのスピードで運筆してガツチリ止め④の方へ突き返す。



〈釈文〉郡中正・爰孝伯。中正・顔文遠。魯郡丞・白法相。功曹史・孔暉祖。督魯・并・新陽。

— 信山先生の自伝 —

「硯上の塵」を読む38

故郷に錦を飾るという言葉がありますが、長野県歌「信濃の国」の歌碑の揮毫を担当されることになった信山先生の胸中いかばかりかと感激のできごとがありました。

（編集部）

県歌「信濃の国」歌碑

昭和五十一年八月、県歌「信濃の国」の歌碑を建てる会の常任理事会から、歌碑揮毫の要請を受けた。県制百年を記念して、県歌「信濃の国」の歌碑建立の願いが県民運動として大きな高まりを見せ、これには一切の寄付行為を認めず、一家庭百円、一学童一円、二百万県民から浄財が寄せられ、長野市の県庁構内及び松本市運動公園に建立されることになったことがすでに報じられていた。信州人の気質を最も理解してくれる書家ということで、私に白羽



「信濃の国」歌碑の揮毫

の矢が立てられたということである。私にとつてもたいへん光栄なことである。前述したように「信濃の国」の作詞者浅井冽先生は、長野師範において漢文と書道を直接にお教えいただいた恩師である。故郷への感謝、恩師への感謝の気持ちを込めて、是非ともお役にたきたいと思い、私は謹んでこの申し出をお受けすることにした。

さてお引き受けはしたものの、どのような形体でということは、万事よろしくと一任されてしまった。石の面は縦一・メートル、横二メートル余と決まっている。その中に四百余文字をどうおさめればよいか。これは一面からすれば書作品ではあるが、目的はこれを見て、誰もが読め、かつ口ずさめるものでなくては意味をなさない。信濃の風景を思い出しながら、慎重に全体の配置を考え、漢字は楷書で太くがっちり、またひらがなも漢字に負けないよう、強く力を込めて書いた。歌碑の原作は、茅屋の座敷に大机を二個並べ、一週間を費やしてようやく納得のいくものが書き上がった。

十二月二十三日、歌碑が完成して県庁前において除幕式が行われた。幸い好天にも恵まれて、感激あふれる除幕式となった。当日の長野読売がその模様を詳しく報じているので、それを抜粋して次に示すことにしよう。

「二百万県民の団結が実った―二十三日午後、長野市の県庁敷地に建立された県歌『信濃の国』の歌碑の除幕式が行われ、晴れ上がった初冬の空の下に集まった約千人の県民は歌碑の前で『信濃の国』を力いっぱい、五、四、三、二、一と参加して建てられた立派な歌碑に感動していた。式は午後一時からの予定だったが、自分も参加して建てられた歌碑を見ようと、長野市内小中学生、ヤング、老人とあらゆる階層が正午過ぎから続々つめかけ、開始時には千人を超した。（以下略）」

こうして集まった人々全員で除幕をしようと、碑を包んでいる白布に、長い四本の紅白のテープが結びつけられた。黒田新一郎実行委員長の音頭でテープが引かれ、黒みかげの碑が姿を現す。文字が光線を受けて白く輝いている。大きな歓声が聞こえる中で、私は大任を果たし得た喜びに一人ひたっていた。

平成26年度 書象会 夏季合宿錬成会

期 日 八月九日(土)～十一日(月)
会 場 戸倉上山田温泉「ホテル圓山荘」

錬成グループ・指導の先生方(敬称略)

総合指導……田中節山・市澤静山

アドバイザー……藤岡月華

半紙入門……柳澤玄嶽・蕪木珠紅

書象展……中村巍山・大澤梢光

条幅入門……二瓶嶽風・竹内墨洋

謙慎展A……虎井曉鐘・樋口玄山・荻田光山

謙慎展B……杉山曉雲・石丸曉風・山口啓山

日 展……小渕石峯・露崎玄峯・成瀬恵苑

日 展……内藤望山・高田墨山

日 展……樋口玄山・宮本耕成

日 展……千曲川の清流のほとり、戸倉上山田温泉の「ホテル圓山荘」での夏季合宿。平成二十年・二十三年に

日 展……続いて三回目の合宿であり、錬成はもちろんのこと

日 展……内容の濃い二泊三日となりました。部門毎の感想を

日 展……掲載いたします。

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

日 展……

を自分でやってみようとするとうまくゆかず冷汗が出る

ばかり。それが、時が経つと皮がむけたように書くこと

が楽しい時間になりました。錬成会では上層部の先生方

にお会いできたり、添削までしていただき感激しました。

今回の合宿で同室の方とも親しくなれ、二日目の抽選会

では大物が当たり、知らない方にも声をかけられ、「又

来年もお会いしましょう」と名残惜しく別れました。み

んなで肩を並べ、学び、自分の未来の姿の姿を見るこ

とが出来ました。この合宿に多くの人が集うことが書象

会を豊かにしていくことだと感じた三日間でした。

書象展 芙蓉会支部 平野 壺桜

仲間の誘いで参加した合宿も七年目となりました。漢

字も満足に書けない私ですが、親しみのある調和体がと

ても好きで、「一言で漢字とかなの調和と言うがどう表

現したらよい作品ができるのか」自分なりに理解して、

この合宿を終えたいと思いました。共通課題のお手本を

頂き、信山流一行、二行の漢字を熱心に稽古する方々の

中で、審査会員の方が私と同じ課題に取り組んでいまし

た。私は横目でチラチラと筆使いを見たり、その方が席

を離れた時はそっと書いてある作品を見せて頂きました。

鑑賞会で間近に見たその作品は、線の強さと流れを感じ

て感動しました。私にとって合宿は家の仕事も忘れてひ

たすら書に集中出来るうえに、みなさんの素晴らしい作

品を鑑賞させていただける充実した三日間です。本部の

先生方、スタッフの方々に深く感謝致します。

条幅入門 志摩支部 倉谷 真帆

この度、初めての合宿に参加させていただきました。

気持ち少し緊張気味でスタート。先生方は一つ一つ丁寧

にご指導してくださいととても勉強になりました。普段

は、文字の形ばかり気にしていましたが、筆の入れ方、

運び方などを大切にすることで、文字の印象が変わって

くることを教わりました。また筆の持ち方、向きや書く

姿勢においても見直すところがたくさんありました。他

の方の作品を見る機会もあり大変貴重な経験をさせて頂

きました。

先生方の揮毫には思わず見入ってしまいました。目の

前で迫力のある作品が出来上がっていくことに感動し、

書道って素敵だなと改めて感じました。楽しい雰囲気

で本当に参加してよかったです。この合宿で学んだことを

毎日練習して少しずつ頑張ります。最後にご指導くださ

いました先生方をはじめ、皆様方に深く感謝申し上げます。

謙慎展A 府中支部 杉本 純華

三食温泉付、涼しく広い会場で書くことに専念できる

二泊三日。もし自宅で同じ条件を整えたとしても、この

充実感・満足感・練習への意欲は決して得られないで

しょう。

半紙入門 游墨支部 神山 禮光

緑豊かな穏やかな環境・そして源泉かけ流し百パーセ

ントの名湯の魅力に後押しされ、初めて半紙入門のコー

スに参加しました。指導の玄嶽先生の丁寧な書法の説明

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ

で、筆の構造や筆運び等良くわかりました。しかしそれ



解説に聞き入る人たち

向上心
と熱意あ
ふれる参
加者が生
み出す空
気、深い
知識と高
い技術、
情熱をお
持ちの先
生方が、
常に近く
にいらし
て、いつ
でも指導

してくださるという恵まれた環境が、普段とは違うものを引き出してくれるのだと思います。そして、合宿の筋肉痛は消えてもここで得たものは私の中にいつまでも残っています。

最後に、より充実した合宿になるよう、細部にまでご配慮下さった担当の先生方、ご指導下さった先生方、合宿参加を勧めて下さった先輩に感謝いたします。ありがとうございました。

謙 慎 展 B

有象会支部

石井 菁 峰

二年ぶりの二回目の参加となった今回の合宿は、初回参加の時の緊張から解放されて充実したプログラムの中で、落ち着いて学ぶことが出来ました。



張りつめた空気、書く事に集中して

一番の収穫は先生方から熱心且つ細やかなご指導を頂き、自分の癖や新たな課題を発見できたことです。また、今回初めて拝見出来た特別揮毫では、息を呑む書きぶりに圧倒されたのはもちろんのこと、解説時のお話から伝わってくる先生方の人柄や、書道に対する真摯な姿勢に胸を打たれました。

年齢・性別・環境も全く異なる皆さんと共に学び、いろいろな話ができただことは、今後書道を行く上で大きな励みとなりました。ありがとうございました。



机上での制作は様々な体勢で

日 展

木 曜 会

杉 山 窓 影

半紙入門から日展部門までの総評を聞いていて、合宿中に学んだ事がはつきりとした形で掴めました。先生方は一貫して位置・大きさ・形を正確に仕上げる事を伝えて下さっていて、その基本を踏まえた上でインパクトのある作品作りはどうすれば良いか、についてご指導下さいました。そして、先生方のふとした「つぶやき」が自分にとってのキーワードであるように思います。改めて原点に帰る気持ちで制作に取り組みたいと思います。残り多い合宿でした。ありがとうございました。

模範揮毫―書象展俊英五人展の先生方



竹内 墨洋 先生



蕪木 珠紅 先生



宮本 耕成 先生



畑中 高山 先生



柳澤 玄嶽 先生



作者による解説

内容的にも昨年好評でありました書象展俊英五人展に出品された先生方の模範揮毫や、『疑問・質問・何でも相談』のコーナーを設けました。新たな感動や学習で盛り上がり、成果が得られたのではないのでしょうか。夕食後は任意の錬成にもかかわらず、例年以上に多くの方が参加され、とても内容の充実した二泊三日の合宿だったと思います。

来年度の合宿については現在のところ未定ですが、今回参加された皆様にお書きいただいたアンケートを参考に、日程・場所・内容を検討し、より良い合宿をめざしてまいりたいと思います。

夏季合宿錬成会を終えて

合宿担当 宮本 耕成

三年ぶり三回目となりました戸倉上山田温泉 圓山荘での夏合宿に、全国からご参加くださいまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今回の合宿はお盆に近い時期の開催ということで、参加者が例年よりも若干減少しました。その分、会場のスペースには余裕がで、ゆったりと落ち着いた環境の中で錬成に励むことが出来ました。また指導の面においても、一人一人に接する時間が多くとれて、より懇切で丁寧にあたることで出来たのではないかと思います。



理事長先生のご挨拶から始まる



三年ぶりの圓山莊



信山先生書「寿」も健在



元気に集合 さあ鍊成!! (受付風景)



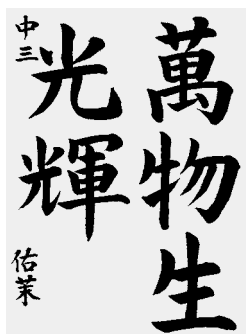
宴会の出しものはAKB48 ?



合宿中顕著に実力向上された方に贈る
栄えある合宿大賞 左から小川仙草さん
江上玄光さん
桂川聴花さん



信山先生ご長女 唐沢かつ子様



松井佑茉（華雪）



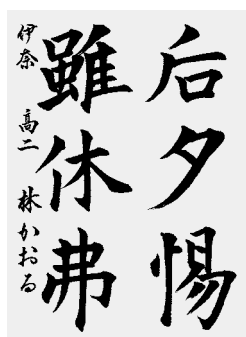
須賀望美（聖徳大附女高）

信山先生記念賞

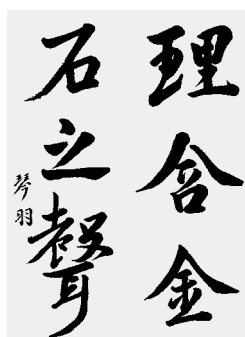
第46回 全国学生書道展 優秀作品の発表



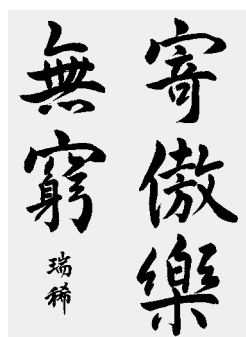
森田彩香（丸子修学館高）



林かおる（伊奈）

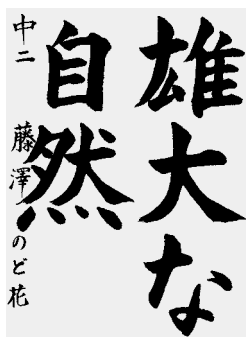


折笠琴羽（麗墨）

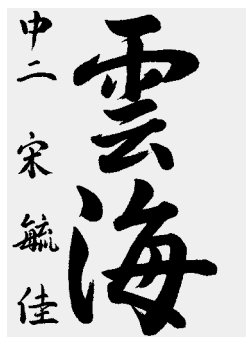


勝又瑞稀（華雪）

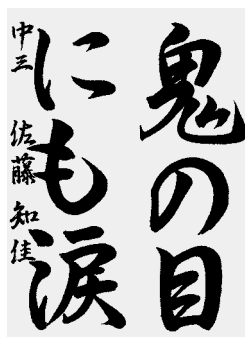
日本書道芸術協会大賞



藤澤のど花（久喜）



宋 毓佳（聖徳大附女中）



佐藤知佳（上尾）



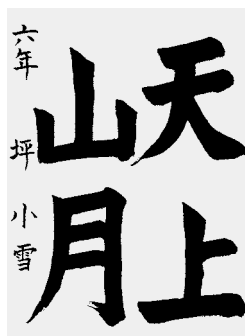
山本美伽（竹華）



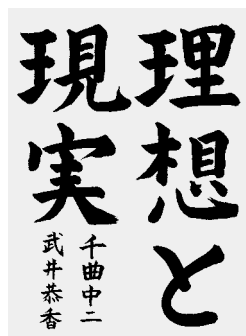
田所あすか（好野）



山田純寧（名東）



坪 小雪（美菜）



武井恭香（千曲）

存乎
士範

三浦英樹
(成蹊大)

粵妙法達華諸佛之秘
藏也多寶佛塔證經之
錫現也發明寶乎十力
弘建在於四侯有禪師
法号楚金姓程廣平人
也祖父並信著釋門慶
歸法胤發高氏矣赤子臨

藤島実奈子
(聖徳大附女高)

會テ會
稽山陰

服部有貴子
(桐生女子高)

仙露
明珠

生田茉奈美
(聖徳大附女高)

東越青
丘南踰

青木有香
(太田女子高)

太平
守原

山田海斗
(秀明英光高)

空桑
自標

池ノ上果歩
(守山北高)

創造

宮崎花菜
(聖徳大附中)

古都の
晩秋

田川美祐
(秀雪)

銀河系
大宇宙

田村奎悟
(長寿原)

恵風
和暢

鎌田安紗香
(美菜)

宇宙へ
の旅

高津真衣子
(有虹)

理想と
現実

八子啓太郎
(八潮)

大声で
笑う

池上恵美
(富貴会)

自然
の美

安齋優希
(聖徳大附中)

国際文
化交流

濱田万青
(光ヶ丘)

宇宙へ
の旅

今井優花
(硯扇)

象形
文字

庄司りん
(有象会)

前進

阿部七美
(聖徳大附中)

集団
生活

磯崎あやみ
(若葉)

少年
大志

北川深雅
(玄樸会)

朝の
市場

脇田彩響
(名東)

希望
の光

廣田あかり
(玄黙)

天よ
氣い

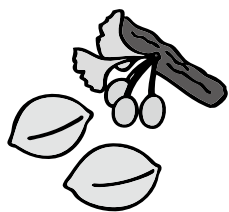
成瀬明日花
(杉)

生き
る力

平田達哉
(城彩)

おすな

杉山ちひろ
(練馬)



第26回さざ波会書展

会 期 八月二十六日～三十一日
会 場 こみなと稲毛ギャラリー
主 宰 池上湖心先生

例年よりやや早めの秋の訪れを感じる八月の下旬に、書展を開催いたしました。会場には、古典の臨書、漢詩、和歌、自由詩などを題材にして、楷書、行書、篆書、隸書、仮名など様々な書体で表現した作品が並び、来場された方々に心ゆくまで鑑賞していただくことができました。また、小中学生の元気で伸びやかな作品は、小さなお子さんを持つ方々からも大変好評でした。

今回の書展には、御多忙な中お越しいただいた土曜会の村山様、横山様はじめ書道関係の皆様、次回に繋がる温かい励ましの言葉をかけていただきました。厚くお礼申し上げます。

この作品展を通して書に取り組む気持ちを新たに、次回開催を目指して日々精進していきたいと思っています。

(井上葉楓 記)



たくさんの参観者が来場



先生を囲んで

第七回珠紅会書展

会 期 八月二十九日～三十一日
会 場 東京芸術劇場アトリエウエスト

まもなく夏休みも終わろうとする八月末、王子「北とぴあ」からはじめて池袋、東京芸術劇場に会場を移しての「第七回珠紅会書展」が開催されました。地の利も幸いして、多くの方に見ていただくことができました。書象会からも唐沢かづ子様、西野江月先生、理事長夫人珠光先生はじめくさんの先生方にお運びいただき、ありがとうございました。

会場正面には信山先生と珠紅先生の颯爽としたお作、左側は高校、大学、一般会員全員が、先生に高いハードルを与えられてウンウン唸りつつ、汗だくで稽古した成果です。右側は珠紅会自慢の小中学生条幅作品。素直で伸びやか、力のこもった印象深い作品が並びました。そして恒例の刻字、陶板、コースター等の工夫作品。

陶板、コースター等の工夫作品。

「真面目な制作態度が伝わり、見応えがある。」と先生方からお褒めをいただきました。すべからく、珠紅先生の熱心なご指導の賜です。一同、更なる成長を目指して精進して参りたいと思います。

ご来場下さいました皆様、お手伝いいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

(鈴木良龍 記)



整然と陳列された作品

本誌10月号裏表紙掲載の「通信条幅研究会」について、その規定の抜粋を紹介いたします。新規のご入会を改めてお勧めいたします。
(研修部)

書象会通信条幅研究会規定 (抜粋)

一、**特 質** 通信によって手軽に楽しく楷、行、隸、かなの基礎技術を修得し、同時に条幅作品を書く力を身につけることができる。

二、**指導者** 研修部

三、**実習について**

① **課題を提出する。**

- ・課題は楷書1枚、隸書1枚、かな1枚、合計3枚とする。
- ・会員自身の意志により3体の課題の中から2体を選択必修とし、同時に3体の課題を履修することはできない。
- ・課題は3ヶ月毎に変更していく。したがって会員は添削を受けた作品を参考にして同一課題を3ヶ月にわたって研究する。
- ・選択必修にした2体は会員自身の意志により、随時3ヶ月毎に3体のうち他の1体と取り換えてもよい。

② **課題は定められた手本を送付する。**

- ・手本は印刷で実物の1/4大のものである。
- ・会員は前記の手本を半切に書く。

③ **添削は毎月1回受けることができる。添削を受ける際は次の手続をとる。**

- ・条幅作品の郵送、提出は毎月末までに必着とする。月遅れは受理しない。
- ・指定課題の3体以外の書体を郵送、提出しても受理しない。
- ・添削を受ける作品には極秘番号を左下すみに鉛筆で記載しておく。
- ・雅号、名前などの落款も作品に入れる。

④ **添削の結果は次のようにする。**

- ・成績は100点法によって採点評価する。
- ・随時、極秘番号だけによる出品者成績一覧表を全員に送付する。

四、**優秀な成績を収めた会員について**

- ① 1年間欠かさず継続した会員で、進歩著しい者に対しては努力賞（副賞）を贈呈する。
- ② 1年間欠かさず継続し、優秀な成績を収めた会員に対しては優秀賞を贈呈する。

五、**研究費について**

- ・入会金は1000円とする。
- ・毎月の添削、運営費、手本代等を含めた研究費は、一ヶ月 1000円とする。
- ・入会者には会員証を送り、会員極秘番号を通知する。この番号は事務処理上、又、成績一覧表発表の時に使用され、通信条幅研究会本部の他には極秘である。

※通信条幅研究会は、略称を通信条研、又は条研とすることがある。



〈隷書条幅〉 評 久保 妍山

秀 麗 重厚な線で全体感よく仕上げられた作。

涼 華 大胆な書きぶりで雄大にまとめられた。

景 草 軽快な線で書けた作。この調子で。

玉 泉 鋭い線で自由に伸びやかに書かれている。

峰 雪 布置の良い作。墨量豊かに仕上げた。

鐘 嶽 伸びやかな線で書けている作品。大佳。

皓 静 切れ味のある線質。全体感もよい作品。

穆 舟 スピード感のある線で爽やかに出来た。

〈仮名条幅随意〉 評 内藤 望山

霞 泉 美しい紋画箋に流れる墨色と連綿が光る。

斉 花 点画の当たりが絶妙。線の強さが顕著。

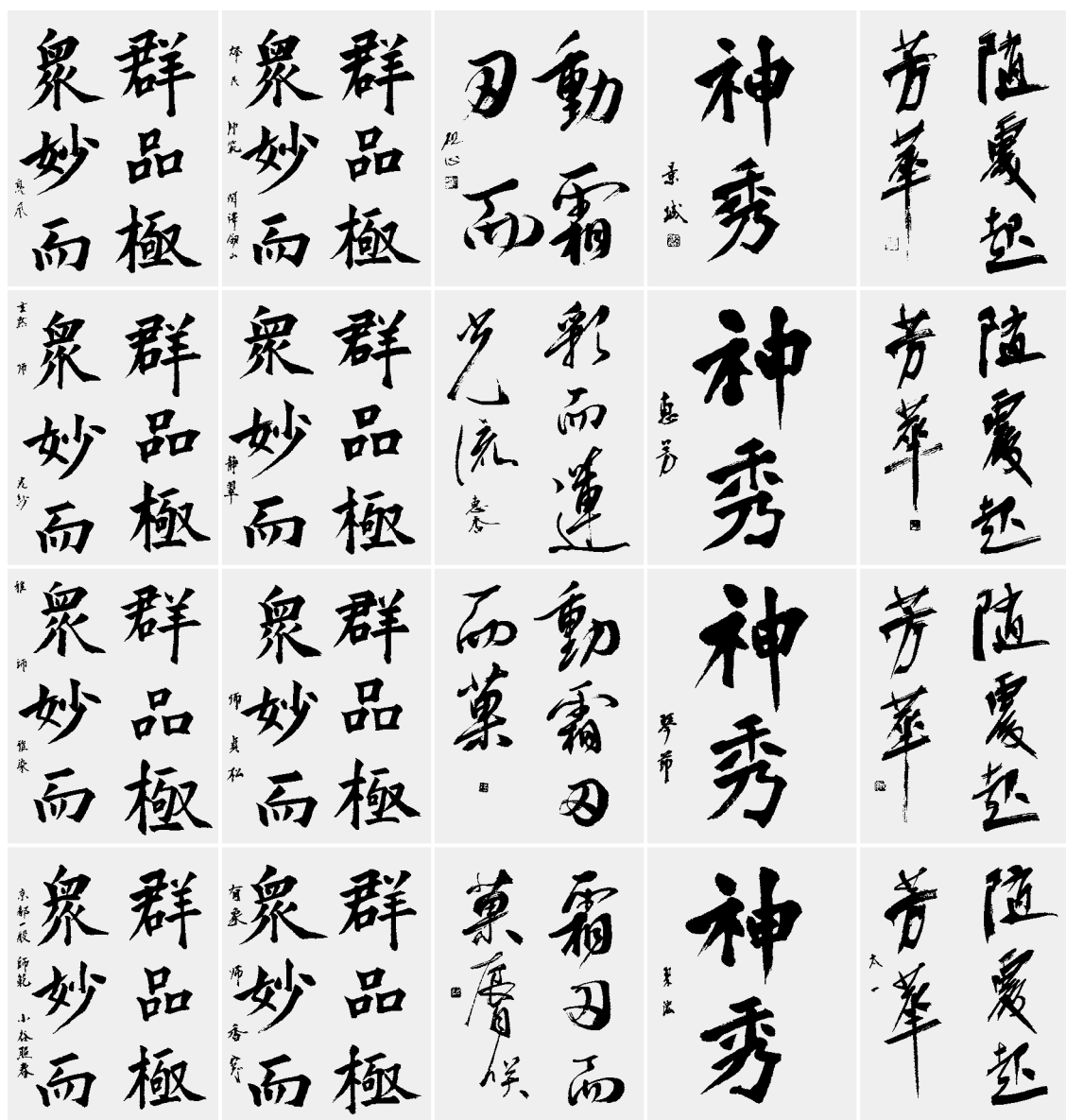
泰 慧 手本を厳格に捉えて書き込んだ努力大佳。

〈通信条幅〉 評 二瓶 嶽風

田口雅華 含墨豊かで墨にツヤが出た。

今井春海 重厚な線で堂々と書けている。この調子。

井上悠水 豊かに軽快な線で美しく仕上げて大佳。



基本課題

評 虎井 曉鐘

仲島秀峰 筆勢豊かに信山書法を自由自在に駆使。
映 光 含墨豊に全体観もピッタリ決めた秀作。
牧 亭 切れ味鋭い運筆はまさに本格の信山流。
太 一 まだ細い線が目立つが逆筆が効いて清冽。

研究課題

評 虎井 曉鐘

景 城 鋭角の効いた線は強く深い。中鋒用筆佳。
恵 芳 主画強調の形体、太い線表現大佳。
琴 節 逆筆の鋭い用筆で骨力を發揮した佳作。
翠 法 腕法による剛健な用筆で重厚な風格の作。

古典研究

評 内藤 望山

硯 心 弾力の効いた暢達な線表現が光る。
恵 香 原帖の形体把握よし。躍動的な筆致大佳。
花 瑤 横画の微妙な動きを再現した写実作。
谿 曄 直管直筆で強靱な筆力と縦の流れよし。

師範部

△楷 書▽

評 柳澤 玄嶽

関澤劔山 緊張感のある凜然とした格调高い作品。
静 翠 結構の正確さが光る。清冽な線質大佳。
貞 松 写実に徹して全体感の美しい作品。
香 窓 起筆に歯切れがあり、律動感に溢れる。
亮 風 墨量豊かに一点一画を慎重に書き上げた。
光 紗 強靱な線質で、安定感に満ちた作品。
雅 染 背勢構造を巧みに表現した鍊度ある作品。
小谷照春 線質暢達して爽やかな雰囲気醸す。



蘭	秋	寿	雅	桂	清	明	壺	壺	白	聴	香	菱	花	玲	齊藤汀苑	湖	翠	葉	木
月	麗	汀	幸	秀	香	笛	水	桜	葉	月	琳	花	仙	笙	純朴な筆緻で、落ち着きと優しさあり。	亭	雅	草	華
手本に忠実で、貫通力のある作品。	やや細めながら線に緊張感が満ちている。	正確な字形で軽快な流れもすばらしい。	文字の大小長短をうまく書きわけた佳作。	筆の開閉が自在である。連綿も見事。	切れ味のよい線で、スピード感が快い。	淡墨で静かにまとめた。余白も美しい。	やや小ぶりながら上品にまとめた。	伸びやかな線で、穂先も良くきいて鋭い。	澄み切った線質で、格調の高い作品。	墨色の変化が効果的。渴筆も美しい。	柔らかで伸びのある曲線。形も見事。	美しい線質で、伸びやかで気持ち良い作。	信山書法による表現的臨書、格調高し。	腕の動きが大きく、等圧の運筆、見事。	花	直線的な軽快なタッチ、余白が明るい。	重厚で暖かみのある作。安定感抜群。	静かな筆緻が印象的。書的心境が深い。	余分な力が抜け、清らかな味わい有り。

△仮名▽
評宮本 耕成

中三 小淵千里 残暑	小二 上 福田小遙 りまつ	小四 準二宮崎莉唯乃 けたくや 空	小六 榎本麻衣花 南十字 星	中三 松井佑菜 太平洋 の波
小六 榎本麻衣花 秋分	小ニ 平石は月 りまつ	四年 庄村弘美 けたくや 空	六年 舘澤舞 南十字 星	船橋 中二 五段 込山夏海 太平洋 の波
伊奈 小三 荒木真結 電	小ニ ひかり そら	小三 し のぶ 赤んぼと	小五 関谷 優 体力 作り	中一 晴美 六段 梨奈 手紙を 書く
小ニ 杉山ちひろ 九	小ニ おはらゆうこ そら	三年 吉原 おやが 赤んぼと	小五 廣谷真結子 体力 作り	中一 準五 芹かりん 手紙を 書く

学 生 部

評 成瀬 恵苑

松井佑菜 ていねいな筆づかいで美しくまとめた。
込山夏海 まじめな書きぶりで好感がもてる。
梨 奈 字形、線質ともすばらしい作品。
岸かりん 一画一画気持ちがこもった作品。
麻衣花 のびのびとした明るい立派な作品。
舘澤 舞 すなおでまじめに書いていて良い。
関谷 優 堂々として力強い作品にまとまった。
真結子 字形が整い、最後の一画まで力がこもる。
莉唯乃 元氣よく一生懸命書いた。
庄村弘美 形よく力強い筆づかいで見事。
しのぶ 大きくのびやかに書けた。
あやか すみをいっぱいつけて元氣よく書けた。
福田小遙 大きくうでを動かして力強くかけた。
平石は月 力強く、明るい作品。
ひかり かたちよくいきおいのあるよいさくひん。
ゆうこ いっしょうけんめい。なまえもじょうず。

半紙随意

評 竹内 藍山

小淵千里 行書の正しい用筆法で力強さもある。
麻衣花 素直な線質で、名前も含め全て良し。
荒木真結 バランスが大変美しく、素晴らしい作。
杉山知優 正しい筆づかいで、堂々と書けました。

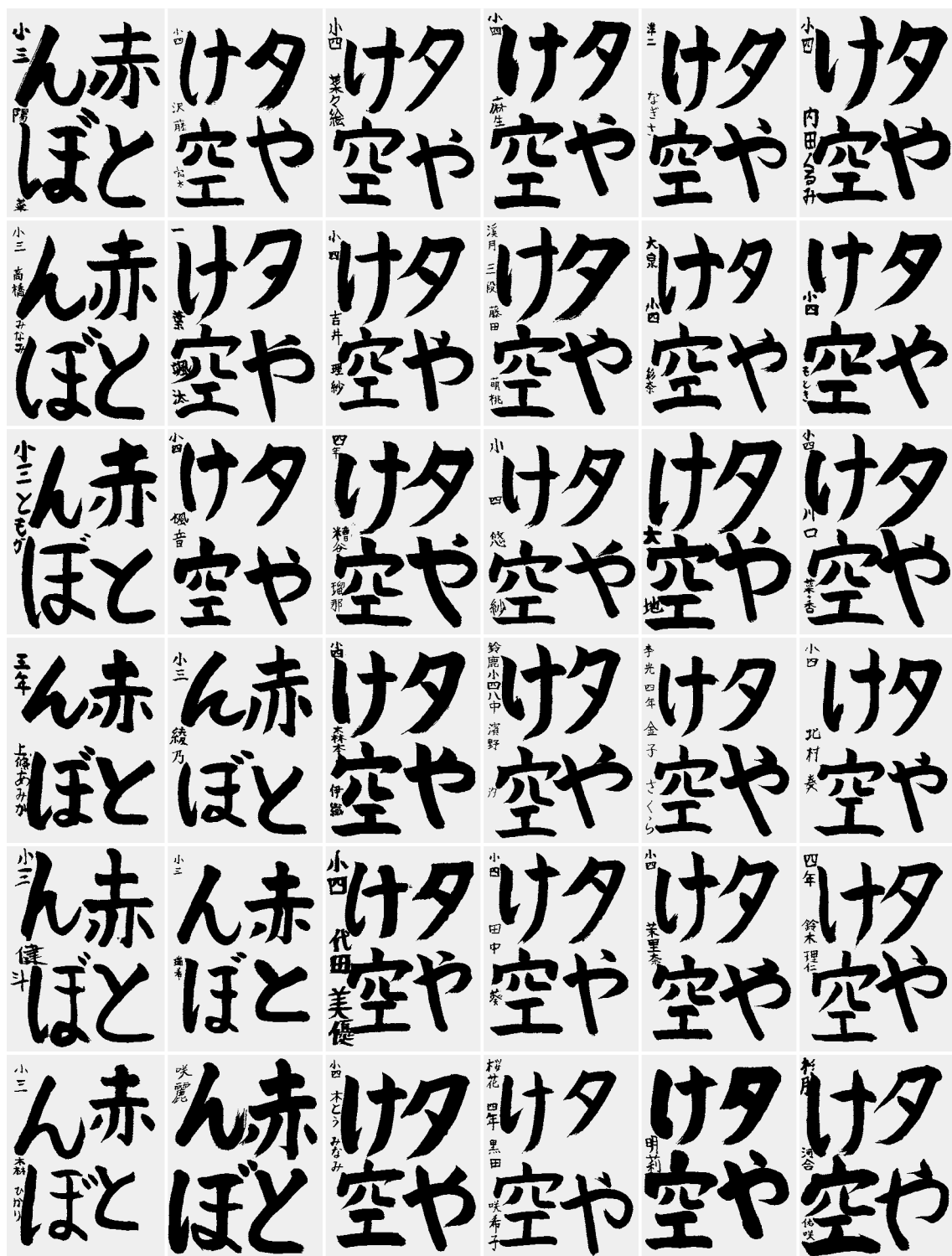
このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

〔楷書〕 〔段位〕 鳥居 真理 杉森 淳子 藍花 雪香 和仁 敦子 上條 令奈 八戸 光 東根 ふたば 伊奈 黒田 千幸 奈良 菅田 幸 華雪 大川 ぐみ 八潮 鈴木 彩夏 伊奈 林 かおる 一絵 礼子 麗墨 折笠 琴羽 中央 竹花 彩音 赤石 如月 月 有象 静舟 若駒 小柴 美恵子 玄黙 眞佐 子 千曲 利江 子 若松 由紀 子 八潮 仁平 賀美子	〔假名〕 〔段位〕 正佳 千浪 書之 吉岡 一実 八潮 みなみ 湊 藤森 美奈江 飯田 岡庭 菁翠 書泉 香園 北府 渡部 美也子 大象 小沼 宗心 〔級位〕 若竹 礼子 等原 理紗 雅玄 枝子 一絵 記
---	---

小六 南十字星 音也	手紙を書くと 準六 小松莉子	手紙を書くと 龍文 萌音	太平洋の波 中二 雅天	太平洋の波 中二 五段 井上和泰	太平洋の波 準六 上尾中二 楓子
南十字星 七美	手紙を書くと 中一 中里佐和子	手紙を書くと 中一 森下弘裕	手紙を書くと 中一 奈裕	太平洋の波 中二 高橋 未恵	太平洋の波 中二 八子 啓太郎
南十字星 小六 廣藤源慶	南十字星 美菜 六年五段 結珠	手紙を書くと 中一 準三 陽大	手紙を書くと 中一 みのり	太平洋の波 中三 史優	太平洋の波 中二 松戸中二 木裕
南十字星 六年 準四段 中村心	南十字星 小六 吉原歩花	手紙を書くと 中一 麻緒	手紙を書くと 中一 準五 北條果乃	太平洋の波 中二 桃子	太平洋の波 眞実
南十字星 小六 萌日	南十字星 小六 村田朝陽	手紙を書くと 中一 岩本莉子	手紙を書くと 中一 神田梨花	太平洋の波 中三 美穂	太平洋の波 中三 熊乃香
南十字星 小六 池川琴音	南十字星 小六 奥原亜美	手紙を書くと 中一 六段 美濃岡知樹	手紙を書くと 中一 森田美紀	太平洋の波 中二 ひなた	太平洋の波 中二 六段 今井花 優

富士 池川 琴音 蓮田 萌 日心 皓花 中村 源慶 硯扇 齋藤 美 若松 七 晋也 秀雪 田窪 亞美 蔵雪 奥原 朝陽 華雪 村田 歩花 柏心 吉原 珠 美菜 結 花	一葉 中里佐和子 美五 小松 莉子 大象 美濃岡知樹 中野 岩本 緒 蒲田 麻 大 伊奈 陽 弘 西文 森下 音 龍文 中村 美紀 華雪 森田 梨花 竹華 神田 果乃 名東 北條 乃 山愛 みのり 汀楓 奈 桜	宮地 雅 矢 秀雪 ひな 正桂 美多 光丘 和多田 桃子 りん 実 優 有穂 高橋 未恵 小光 井上 和奏 硯扇 今井 優花 若松 穂乃 香 玄樸 高橋 眞実 松戸 未 裕 八潮 啓太 郎 上尾 竹村 楓子	(毛筆) (中二・三)
--	---	---	----------------

若葉	書之	佐藤	昭太	弥	長壽	湊	若宮	華雪	綾華	彩筆	愛心	北府	大坂	皓花	中央	雅	中野	倭	玄機	優生	山愛	寶春	瑞祥	水代	李光	神奈	城彩	照澤	凜心	有象	霞墨	久喜	高社	荷葉	溪月	書之	大象
沙	藤	昭	太	弥	川端	小林	田畑	笹井	美	戸谷	紗	加藤	八木	大坪	中川	芳	川上	茂木	城戸	澤井	松岡	土屋	服部	柴田	大河	西尾	片庭	目黒	柏木	石井	宮川	萩沼	山崎	大堀	石原		
					陽夏	陽夏	雅也	千寿	夢	遙音	弥	徹朗	玲奈	千紗	遙愛	奈	螢	真子	颯太	麻優子	実怜		桃子	まどか	原真友	久保菜葉	朋香	雄己	力哉	真斗	奏汰	悠歩	悠登	まりな	萌花		



【小三】

飯山 森 ひかり
花蓮 水田 健斗
湊 ともか
光丘 あみか
高社 高橋みなみ
たけ 陽菜
山愛 咲麗
前原 瑞希
華雪 望月 綾乃
純心 楓音
一葉 颯太
石峯 沢藤 宏太
聖 みなみ
飯田 代田 美優
志摩 森本 伊織
硯 糟谷 瑠那
和 吉井 理紗
華雪 葉々 絵
桜花 黒田 咲希子
若竹 田中 葵
鈴鹿 濱野 汐
有虹 大野 悠紗
溪月 藤田 萌桃
石文 麻生
月 樋口 明莉
竹華 里奈
李光 金子さくら
一絵 大地
大泉 彩奈
英二 なぎさ
杉月 河合 佑咲
大田 鈴木 理仁
霞墨 北村 奏
有象 川口 菜々香
勝木 もとき
茅野 内田 くるみ

8中 はるか そら	小三 いなか りまつ	小三 いじま りまつ	三年 赤 りまつ	三年 赤 りまつ	小三 赤 りまつ
小一 つなみ そら	三 手し りまつ	小二 高須大知 りまつ	大阪 三年 りまつ	大阪 三年 りまつ	小三 きぼう りまつ
一 ねん りお そら	小三 井口 りまつ	二年 井口 りまつ	小三 にしゆの りまつ	小三 大京 りまつ	小三 大京 りまつ
小一 ゆうた そら	小三 小笠 りまつ	二年 竹口 りまつ	小三 まな りまつ	小三 けい太 りまつ	小三 けい太 りまつ
五下 しゅう そら	小三 ふん りまつ	小三 けいと りまつ	小三 たくみ りまつ	小三 流 りまつ	小三 水品 りまつ
ゆん もん そら	小一 まりな そら	小三 わかば りまつ	小三 りの りまつ	小三 赤 りまつ	小三 赤 りまつ

龍文 玄二 齊藤 一秀	玄二 新井 秀太	朝日 田中 里桜	華雪 こな み	宮川 はる かな	北府 まり な	有虹 石川 りあ	希望 小す ず	仙台 大森 蒼河	松紅 水眞	杉紅 篠田 雪乃	東陽 水乃 月	大阪 板谷 ゆめ	秀雪 大原 好未	珠悠 けい 太	新城 荒井 遼太郎	高風 宇城 みず	高風 宇城 みず
----------------------	----------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	----------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	-----------------	----------------	----------------

我々にもうて、最かれ光景は一度
と夫所し、ないし、ふと、あけなく、倒り
度に必ず、起る、ところにある。
聖 師 花 屋

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 中一
鳥内里菜

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 飯島直奈

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 脇 遥華

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 豊川 陽愛

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 蓮田 四三
小山 千尋

空	に	白	い	大	き	な	く
じ	ら	ぐ	も	か	あ	ら	わ
れ	ま	し	た				

はな 三三
よし 龍之介

我々にもうて、最かれ光景は一度
と夫所し、ないし、ふと、あけなく、倒り
度に必ず、起る、ところにある。
蔵 準四 上條 惠香

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 大野 五祐

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 五十葉 月美

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 八幡 和幸

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 土筆 四三
和田 美咲

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 高橋 真彩

空	に	白	い	大	き	な	く
じ	ら	ぐ	も	か	あ	ら	わ
れ	ま	し	た				

ラン 三三
その べあつき

わが袖は潮干に月もぬけ
の石の人、そ、知、れ、わ、け、く
間、も、な、い、と、や、つ、い、り、く

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 飯東 春樹

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 加藤 希保

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 村野 帆七海

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 三ツ 特子

きのう江の島の水ぞく
館で、魚やいるかの曲芸
を見ました。 日本 ありか

空	に	白	い	大	き	な	く
じ	ら	ぐ	も	か	あ	ら	わ
れ	ま	し	た				

三三 ありか

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 千曲 中二
式井 恭香

秋の香りに秋の味。キンモクセイ
が咲くと、山ではキノコが出始め
ると言われている。 杉中 一
川田 乃以

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 鎌馬 五三
宮本 真優

漢字は、正しい筆順で書く
と形が整えやすくなり、無
理なく書けます。 加藤 咲歩

〔硬筆〕

〔一般〕

聖 花 瑞
蔵 上條 恵香
巍山 翠 山

〔中学〕

千曲 武井 恭香
中嶋 島内 里菜
玄樸 坂東 真桜
船橋 川田 乃以
杉 飯島 直奈
雅 飯島 直奈

〔小五・六〕

光丘 千葉 月美
若松 加藤 希保

〔小三・四〕

書之 栗川 陽愛
土筆 和田 美颯
シ 風 花
蓮田 小山 千尋
美菜 高橋 真彩
大阪 三平あやか

〔小一・二〕

山愛 近正龍之介
サン 物部あつき
華雪 鳴原 麻央

書き初め講習会のお知らせ

学生（小学生・中学生・高校生）のための書初講習会です。

今年で四年目になります。地域での様々な書初展や学校の宿題等の課題を中心に行います。ふるってご参加ください。

日時 平成二十六年十一月三十日(日)

受付準備 十三時三十分～

講習会 十四時～十五時三十分

場所 松本市美術館

講師 竹内墨洋先生 寺尾碩雲先生

持ち物 書道用具一式（それぞれの課題に沿った紙と筆）



第31回 成田山全国競書大会

青少年に心の安らぎを与え、豊かな情操を養うことを願い



作品募集期間／平成27年1月25日～31日

主催：成田山全国競書大会実行委員会

後援：中国書法家協会／中国大使館／読売新聞社

お問合せ 成田山全国競書大会実行委員会事務総局

TEL 0476-24-2017（直通）FAX 0476-24-2084

ホームページ <http://www.naritasan-kyosho.jp>

書象会便り

◆第67回長野県書道展受賞者（本会関係）

〈県展選奨〉 竹内墨洋

〈特選〉 藤澤竹虹

〈秀作〉 畔上肖栄、甘利恵泉、遠山天妙

〈褒状〉 伊藤鐘嶽、上條恵香、小池峰弦

下平成苑、塚原花揺、古川瑠光

柳田志華、渡辺泰琴

役員出品

〈審査会員〉 虎井暁鐘 ○金田成仁 ○成沢臨舟

○金井鐘華 ○原山翠光

〈委嘱〉 宮森錦黄、安藤棲嶽、篠田成香

竹内墨洋、寺尾碩雲、笠原泰山

坂本梗月、小林鐘仙、鈴木花照

小山桜玉、熊井紅栄

〈無鑑査〉 永島玄谷

《書展予告》

☆大東文化大学同期生書展（昭和58年度入学）

会期 10月22日(水)～26日(日)

会場 日展新会館（台東区上野桜木2-14-3）

出品者 芦川臨泉（本会関係）

☆第54回高山市国府書道会書展

会期 10月25日(土)・26日(日)

会場 国府交流センター

（JR高山本線飛騨国府駅前）

主催 書象会国府書道会

◆第64回杉並区総合文化祭美術作品展

会期 10月25日(土)～29日(水)

会場 セシオン杉並

（東京メトロ丸の内線東高円寺駅徒歩5分）

出品者 杉山暁雲 杉山窓影（本会関係）

《書展報告》

☆山形県総合書道展

会期 9月20日(土)～28日(日)

会場 山形美術館

受賞者 渋谷皎雲（県書道連盟会長賞）

☆第45回芙蓉会書道展

会期 10月5日(日)～8日(水)

会場 富津市役所一階ロビー

主催 書道研究 芙蓉会

☆第58回世田谷区書道展

会期 10月10日(金)～12日(日)

会場 新宿文化センター

出品者 竹内青紗（本会関係）

☆第9回小光会書道展

会期 10月11日(土)・12日(日)

会場 向陽ビル三階特設会場（国立市）

主宰 松本小光先生

昇段級試験

秋季 師範昇格試験 要項

特待生試験

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。ふるって力作を御出品ください。

昇段級試験

出品規定

●小・中学生

十一月号の毛筆規定
十一月号の硬筆規定

●一般

十月号の漢字条幅規定
十一月号の隷書条幅規定
十一月号の楷書臨書規定
十月号の行書臨書規定
十一月号のかな規定
十一月号の硬筆規定

出品料

●小学生 一点につき 五〇〇円
●中学生 一点につき 五〇〇円
●一般 一点につき一〇〇〇円

特待生試験

出品資格

小・中学生で現在準八段の者のみ

出品規定 昇段級試験と同じ
出品料 昇段級試験と同じ

師範昇格試験

出品資格

準師範試験 一般部で準五段・五段の者
師範試験 準師範の者

出品規定

昇段級試験の一般部規定と同じ
一体につき

出品料

☆準師範試験 四〇〇〇円

☆師範試験 五〇〇〇円

出品の手続き

- 1 左記の形式の出品目録正副二枚に必要事項を記入して、作品と共に提出すること。
 - 2 返信封筒を添えること。(住所、氏名を明記、八十二円切手貼付)
 - 3 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。
 - (個人で認定証を申込む時は返信切手一四〇円を同封し、返信用封筒は不要)
 - 4 師範の認定証は二月号発表後に申し込む。
 - 5 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。
- 出品料が千円以下の場合には切手でも結構です。

出品者氏名	〒	市	区	町	番	号	分	室	〒	市	区	町	番	号	分	室
連絡先氏名																
又か郵入名																
TEL																
住所																
会社																

締切日 十一月二十一日(金)(厳守願います)
発表 十一月二十一日(金)(厳守願います)

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。
師範試験及び特待生試験の合格者は二月号誌上に発表の予定。
出品先 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六 上條方

書象会 藤森大節あて

研修案内

平成二十六年年度 講習会

「贈答・用紙の折形、水引の結び方」

ものを包んで贈るといのは、ものを大切に扱う「こころ」と、相手を想う「こころ」が込められています。小笠原流札法では贈るものの形にあわせて、心を込めて作る「折形(おりかた)」が伝承されてきました。この「折形」は室町時代にはすでに四〇種類以上あつて、江戸時代には四〇〇以上にまで増えたそうです。贈るものの形にあわせて、心をこめて和紙を折り、水引や熨斗を作り、ひとつの包み袋まで仕上げる。今回は小笠原流札法師範のご指導により、「月謝紙幣包み」と「鶴の飾りの付いたお年玉包み」の実技講習を行っていただきます。ぜひお仲間お誘いの上、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 十一月十六日(日) 十三時三十分～十六時

受付 十三時より

途中十五分の休憩をはさみ約二時間半の実技講習を行います

◆指導 小笠原流札法師範 松本 菱博 先生

◆会場 武蔵野市民文化会館

◆会費 三千円

◆定員 三十名

◆持参用具 のり、はさみ、書道用具(小筆)、墨、油煙墨

◆申込み 書象会本部までお早めにお申込ください。
☎0422(53)9743

氏名

発行人 (有) 書象
代表 上 條 貞 子

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
郵便番号180-0001 電話0422(53)9743
振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
振替名義 (有) 書象
印刷所 (株) 高 千 穂 印刷 所